

岡山県感染症週報 2014 年 第 26 週 (6 月 23 日～6 月 29 日)

◆2014 年 第 26 週 (6/23～6/29) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 25 週 2 類感染症 結核 1 名 (80 代 女)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157 : 40 代 男)
 5 類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 1 名 (60 代 男)
- 第 26 週 2 類感染症 結核 9 名 (乳児 男 1 名、30 代 男 1 名、40 代 女 1 名、50 代 男 1 名、
 60 代 女 1 名、70 代 男 2 名・女 1 名、80 代 女 1 名)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 3 名 (O111 : 幼児 男 1 名・30 代 女 1 名、
 O157 : 30 代 女 1 名)
 4 類感染症 レジオネラ症 1 名 (50 代 男)
 5 類感染症 後天性免疫不全症候群 1 名 (30 代 男)

■定点把握感染症発生状況

- 咽頭結膜熱は、県全体で 35 名 (定点あたり 0.81 → 0.65 人) の報告があり、前週より減少しました。
- ヘルパンギーナは、県全体で 36 名 (定点あたり 0.70 → 0.67 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- 感染性胃腸炎は、県全体で 294 名 (定点あたり 5.46 → 5.44 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第 27 週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O26 : 幼児 女) の発生がありました。(7 月 1 日)

1. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、第 25 週に 1 名、第 26 週に 3 名の報告があり、2014 年累計報告数は 15 名となりました。食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、ひきつづき通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは『[今週の注目感染症](#)』をご覧ください。
2. [咽頭結膜熱](#)は、県全体で 35 名 (定点あたり 0.81 → 0.65 人) の報告があり、前週より減少しました。県全体の報告数は減少したものの、真庭地域では増加 (定点あたり 0.50 → 1.50 人) しており、美作地域 (定点あたり 3.33 人) では、前週にひきつづき、発生レベル 3 となっています。咽頭結膜熱は、発熱、咽頭炎、結膜炎を主症状とする小児の急性ウイルス性感染症です。夏季を中心に流行し、プールでの感染も多く見られることから、プール熱とも呼ばれます。患者との接触を避け、流行時には外から帰った後はうがい・手洗いを行うことが大切です。プールなどを利用する際は、前後のシャワーを必ず浴び、タオルは個別で使用しましょう。
3. [ヘルパンギーナ](#)は、県全体で 36 名 (定点あたり 0.70 → 0.67 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。岡山県の患者報告数は例年の同時期と比べ少ないですが、第 25 週、全国では、西日本を中心に患者報告数が増加しており、鳥取県 (6.05 人)、山口県 (4.60 人)、宮崎県 (3.67 人) の順に多くなっています。ヘルパンギーナは、夏に発生する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表的なものです。例年、6 月頃から急激に発生報告数が増加し、7 月頃にピークを迎えます。症状が治まっても、2～4 週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、幼稚園、保育園、学校などの集団生活では注意が必要です。うがいや手洗い、手指の消毒を励行するなど、感染予防に努めましょう。
4. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で 294 名 (定点あたり 5.46 → 5.44 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。県内の発生状況など詳しくは『[感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓		RSウイルス感染症	↓	
咽頭結膜熱	↘	★★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★★
感染性胃腸炎	→	★★	水痘	↘	★
手足口病	↑	★	伝染性紅斑	→	
突発性発疹	↘	★★	百日咳	↑	★
ヘルパンギーナ	→	★	流行性耳下腺炎	↗	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	↘	★
細菌性髄膜炎	↓		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	→		クラミジア肺炎	→	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→				

【記号の説明】 前週からの推移: ↓ : 2倍以上の減少 ↘ : 1.1~2倍未満の減少 → : 1.1未満の増減
 ↗ : 1.1~2倍未満の増加 ↑ : 2倍以上の増加

発生状況: 空白:発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い
 今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成25年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

今週の注目感染症 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は、感染症発生動向調査において、全数把握感染症の3類感染症であり、医師は腸管出血性大腸菌感染症患者を診断したとき、直ちに最寄りの保健所に届出ることになっています。

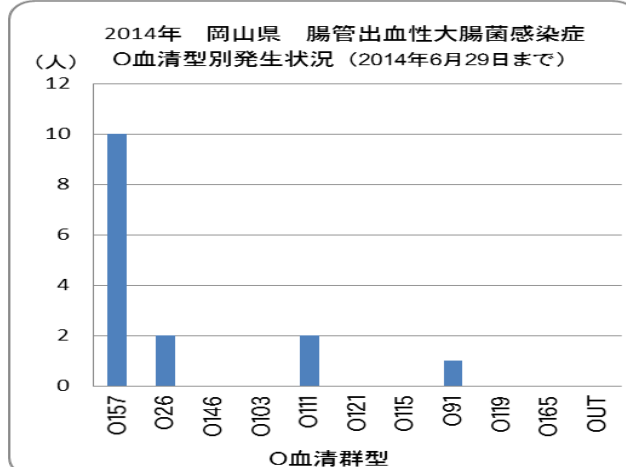
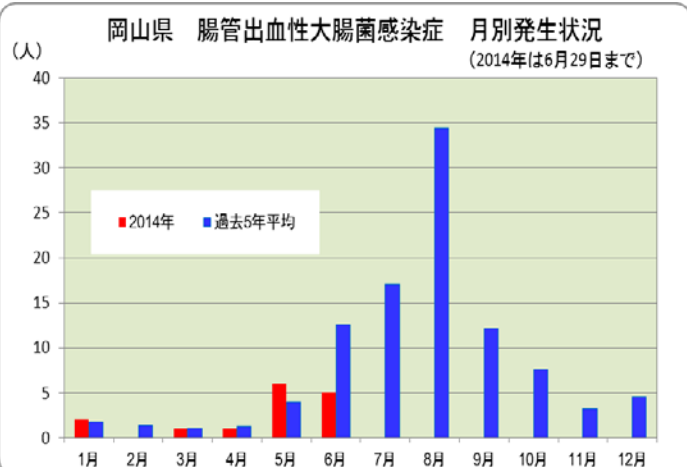
また、学校保健安全法において、第3種の感染症に定められており、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで出席停止とされています。

[腸管出血性大腸菌 Q&A \(厚生労働省\)](#)

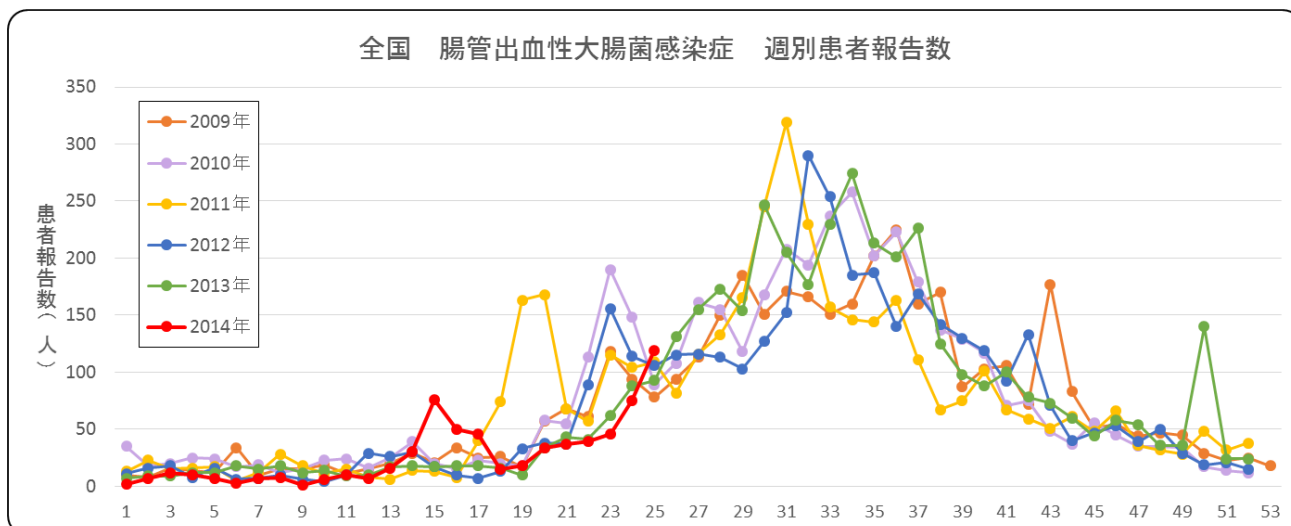
【岡山県の腸管出血性大腸菌感染症発生状況】

岡山県では、第26週に3名の報告があり、2014年累計報告数は15名となりました。血清型別では、O157 10名、O26 2名、O91 1名、O111 2名で、O157が全体の約67%を占めています。

今年は過去5年間の同時期と比較して、患者報告数は少ないですが、例年、7月、8月は1年のうちで最も発生が多くなります。特に、抵抗力の弱い子どもや高齢者などでは、重症化しやすいので注意が必要です。食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、肉の生食は避け、中心部まで火を通すなど、ひきつづき通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。



【全国の腸管出血性大腸菌感染症発生状況】



全国、第25週までの累積報告数は、681名でした。週別患者報告数を見ると、第13週から報告数が増加し始め、第15週には、過去5年間の同時期と比べて最も多くなりました。これは、腸管出血性大腸菌 O157 感染症の報告によるものであり、その半数が、馬刺し喫食と、喫食者の家族への2次感染事例でした。患者報告数は一旦例年並みになりましたが、第24週から2週連続で大きく増加しています。

[国立感染症研究所 IDWR 2014 年第 16 号〈注目すべき感染症〉腸管出血性大腸菌感染症](#)

【主な感染経路】

O157をはじめとするペロ毒素産生性の腸管出血性大腸菌で汚染された食物などを、摂取することによって感染します。また、感染者の便の中には腸管出血性大腸菌が排出されるため、人から人への二次感染も起こります。

【症 状】

無症候性のものから、重篤な合併症を起こし死に至るものまでさまざまですが、多くの場合、3～5日の潜伏期をおいて、軽度の発熱とともに、激しい腹痛、水様性下痢、血便などの症状が出ます。有症者の6～7%で、下痢などの症状が出て数日から2週間以内に、溶血性尿毒症症候群（HUS）、または脳症などの重篤な合併症を発症します。HUSを発症した患者の致死率は1～5%とされています。

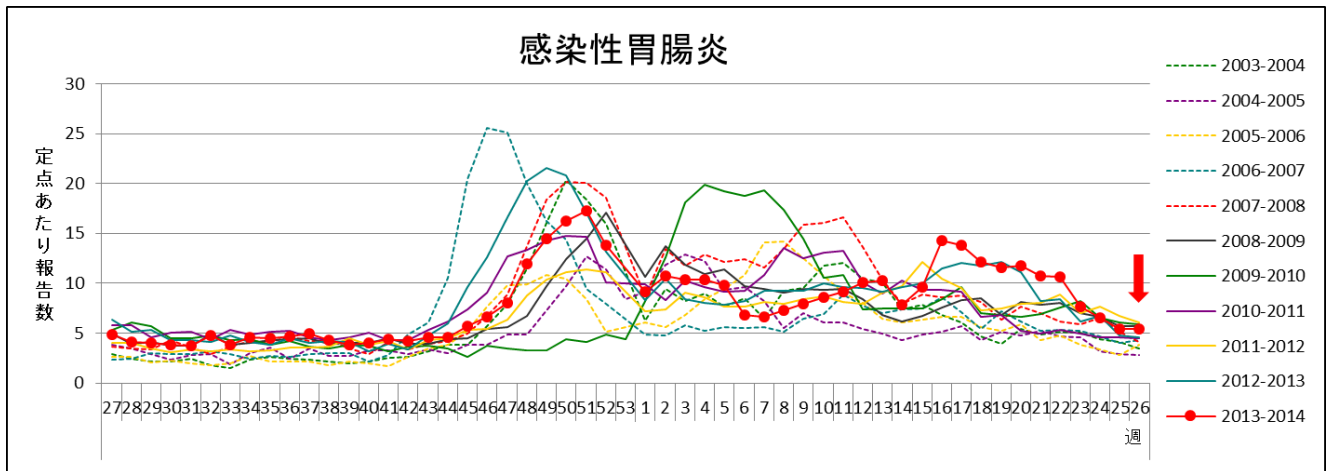
【予 防】

汚染食品からの感染が主体であることから、食品を十分加熱する、調理後の食品はなるべく食べきる等の注意が大切です。特に、生肉または加熱不十分な食肉を食べないようにすることが重要です。人から人への2次感染については、手洗いの徹底等により、感染を予防することができます。特に、保育施設における集団発生は例年多いため、オムツの交換時の手洗いや、これからの季節は簡易プールなどの衛生管理にも注意が必要です。

感染性胃腸炎情報 2014 年 第 26 週 (6 月 23 日 ~ 6 月 29 日)

【お知らせ】今シーズンにおける定期的な感染性胃腸炎情報は、今週(第 26 週)をもって終了いたします。

○感染性胃腸炎は、県全体で 294 名(定点あたり 5.46 → 5.44 人)の発生がありました(54 定点医療機関報告)。



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で 294 名(定点あたり 5.46 → 5.44 人)の発生があり、前週とほぼ同数でした。

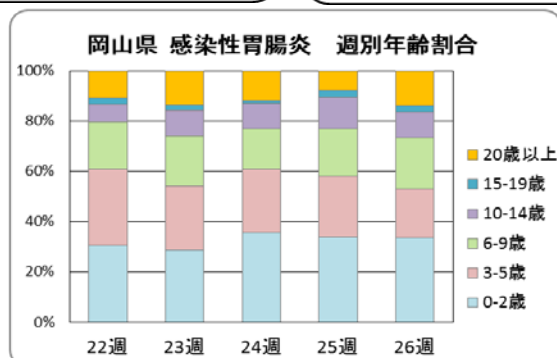
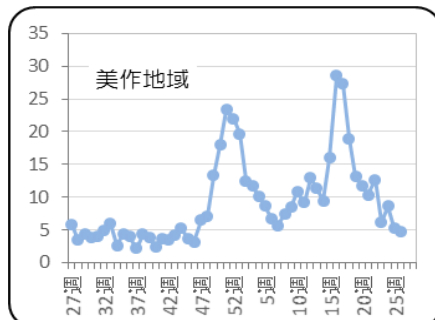
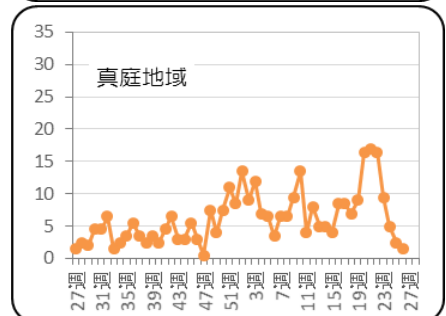
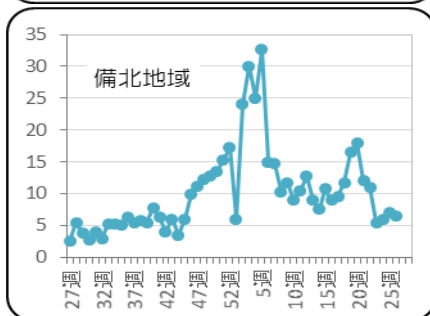
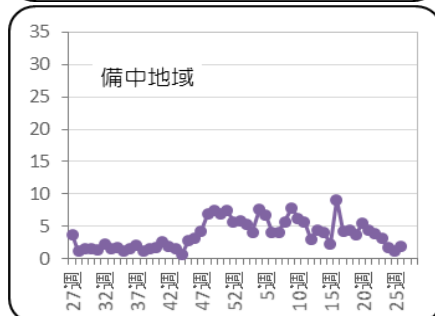
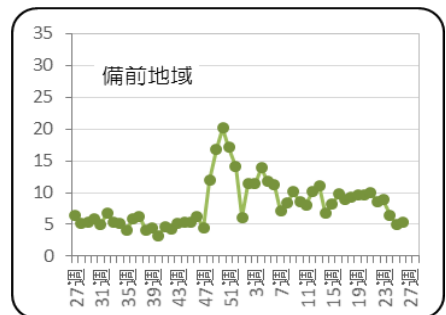
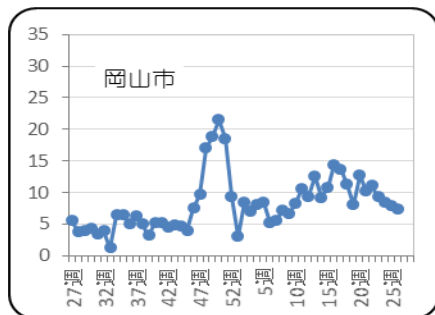
例年、梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎も増加します。岡山県では「**食中毒注意報**」を発令し、注意を呼びかけています。トイレの後、食事や調理の前には、石けんと流水で念入りに手を洗うなど、感染予防に努めてください。

[食中毒に関する情報\(厚生労働省\)](#)

[食中毒注意報を発令しました!\(岡山県\)](#)

◆地域別・年齢別発生状況

地域別では、岡山市(7.36 人)、備北地域(6.50 人)、倉敷市(6.00 人)の順で定点あたり報告数が多くなりました。年齢別割合では、5 歳以下の乳幼児が全体の約半数を占めています。



保健所別報告患者数 2014年 26週 (2014/06/23～2014/06/29)

2014年7月2日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	35	0.65	7	0.50	1	0.09	1	0.10	3	0.43	-	-	3	1.50	20	3.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	61	1.13	27	1.93	20	1.82	4	0.40	-	-	-	-	1	0.50	9	1.50
感染性胃腸炎	294	5.44	103	7.36	66	6.00	54	5.40	13	1.86	26	6.50	3	1.50	29	4.83
水痘	47	0.87	23	1.64	10	0.91	4	0.40	6	0.86	-	-	-	-	4	0.67
手足口病	11	0.20	4	0.29	4	0.36	-	-	2	0.29	-	-	1	0.50	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	29	0.54	14	1.00	6	0.55	5	0.50	1	0.14	1	0.25	-	-	2	0.33
百日咳	2	0.04	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	36	0.67	9	0.64	8	0.73	6	0.60	9	1.29	1	0.25	2	1.00	1	0.17
流行性耳下腺炎	15	0.28	10	0.71	2	0.18	2	0.20	-	-	-	-	1	0.50	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2014年 26週 (2014/06/23～2014/06/29)

2014年7月2日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	35	0.65	7	0.50	1	0.09	1	0.10	3	0.43	-	-	3	1.50	20	3.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	61	1.13	27	1.93	20	1.82	4	0.40	-	-	-	-	1	0.50	9	1.50
感染性胃腸炎	294	5.44	103	7.36	66	6.00	54	5.40	13	1.86	26	6.50	3	1.50	29	4.83
水痘	47	0.87	23	1.64	10	0.91	4	0.40	6	0.86	-	-	-	-	4	0.67
手足口病	11	0.20	4	0.29	4	0.36	-	-	2	0.29	-	-	1	0.50	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	2	0.04	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	36	0.67	9	0.64	8	0.73	6	0.60	9	1.29	1	0.25	2	1.00	1	0.17
流行性耳下腺炎	15	0.28	10	0.71	2	0.18	2	0.20	-	-	-	-	1	0.50	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2014年 第26週 2014/06/23～2014/06/29)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

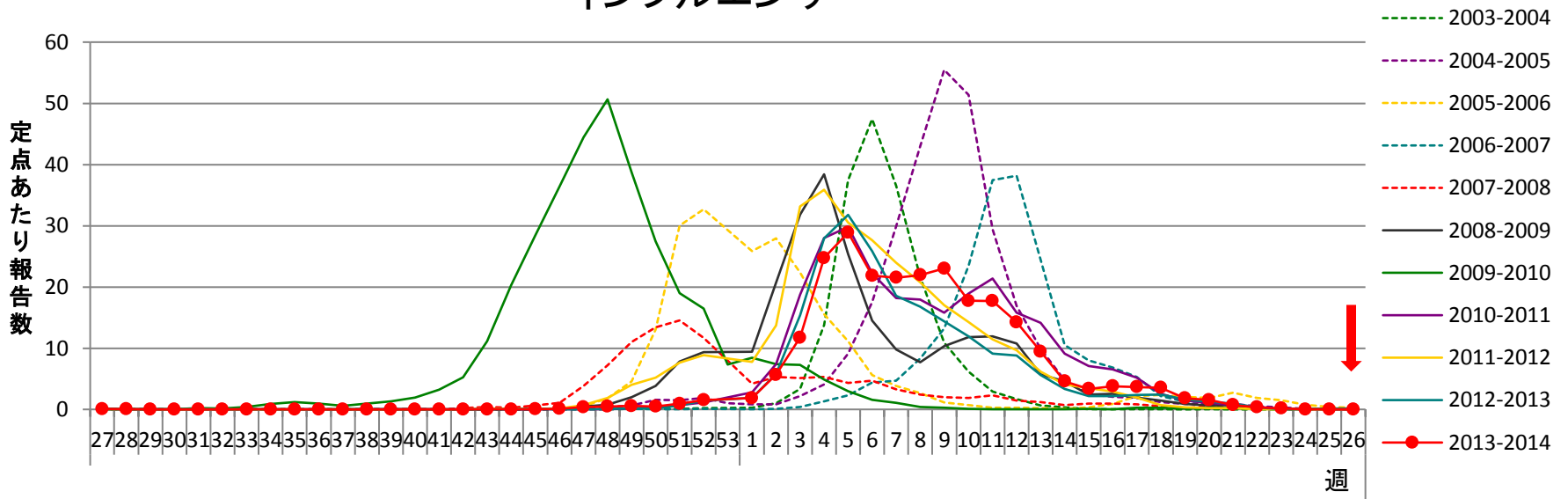
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	35	1	1	8	11	2	5	2	3	-	-	1	-	1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	61	-	-	1	8	8	9	9	5	8	1	1	5	1	5
感染性胃腸炎	294	3	33	41	21	17	20	20	16	12	22	11	30	7	41
水痘	47	-	1	7	9	8	10	3	2	4	1	1	1	-	-
手足口病	11	-	2	3	2	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	29	1	15	11	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	
ヘルパンギーナ	36	1	2	12	9	4	4	1	-	2	-	1	-	-	-
流行性耳下腺炎	15	-	-	1	1	1	1	2	4	4	-	-	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-

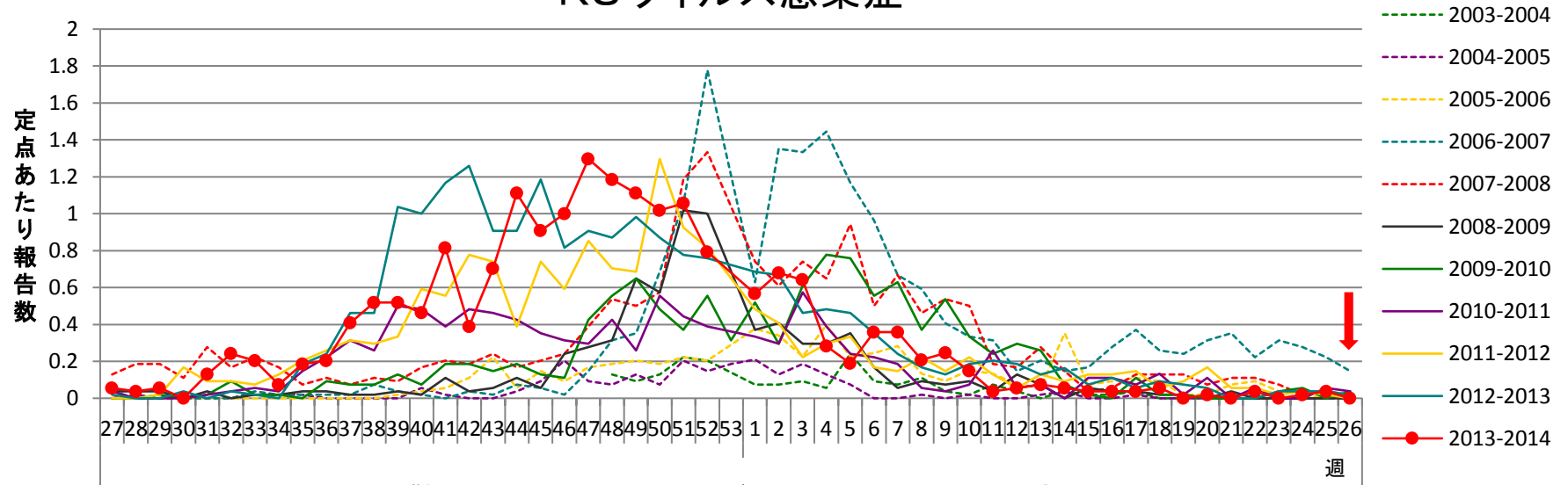
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

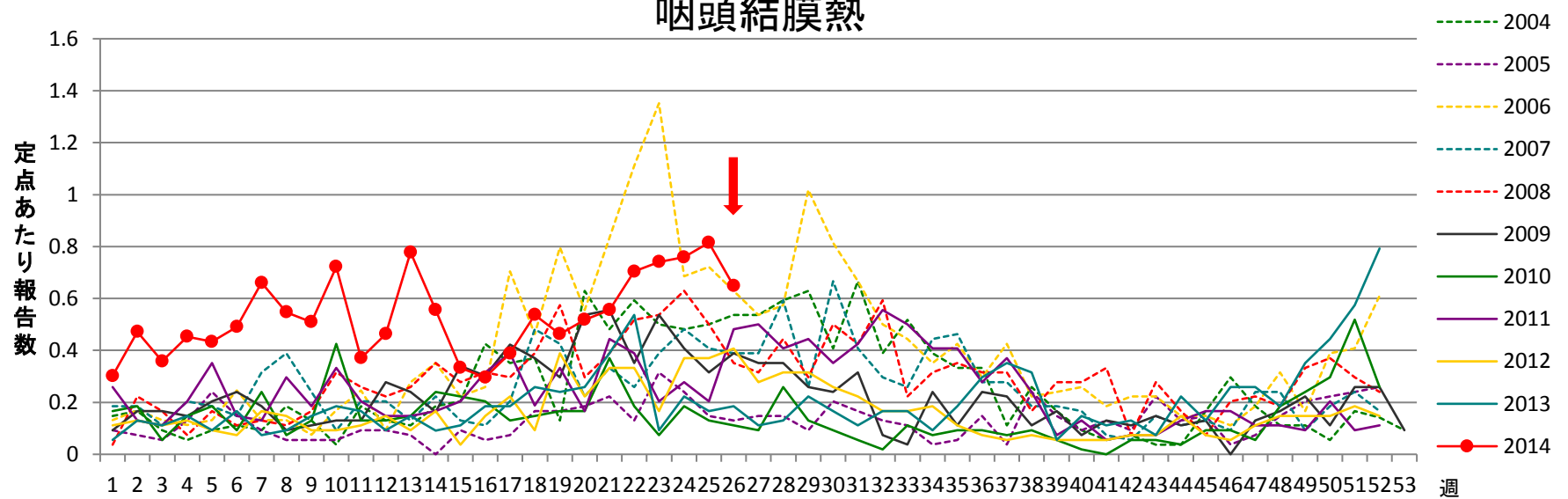
インフルエンザ



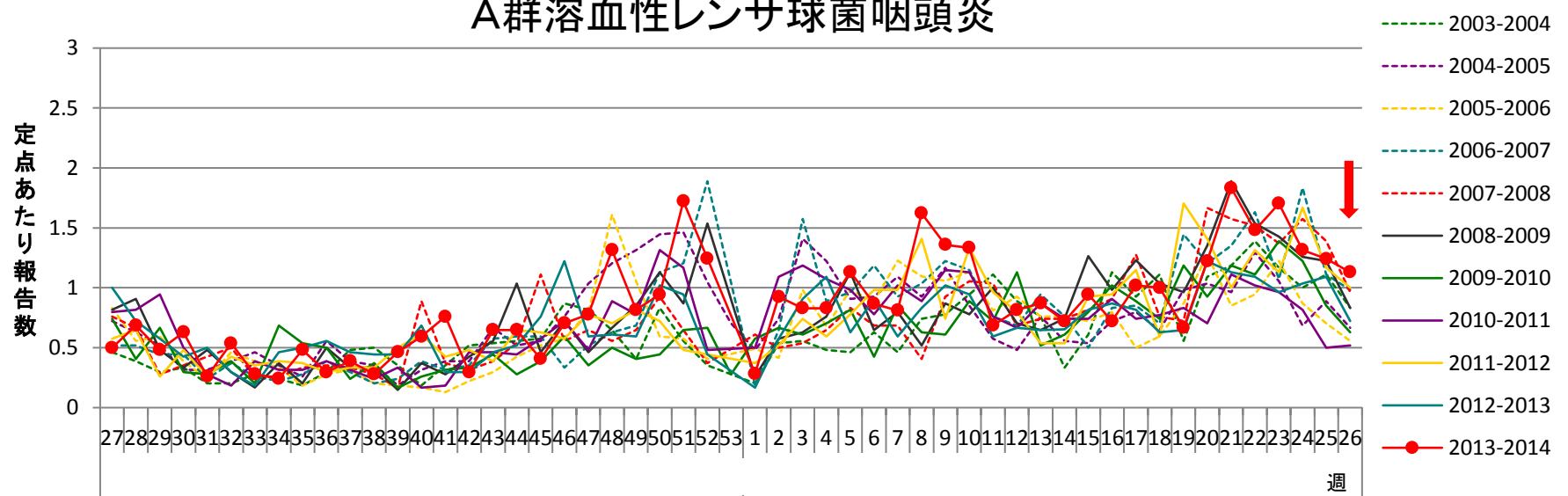
RSウイルス感染症



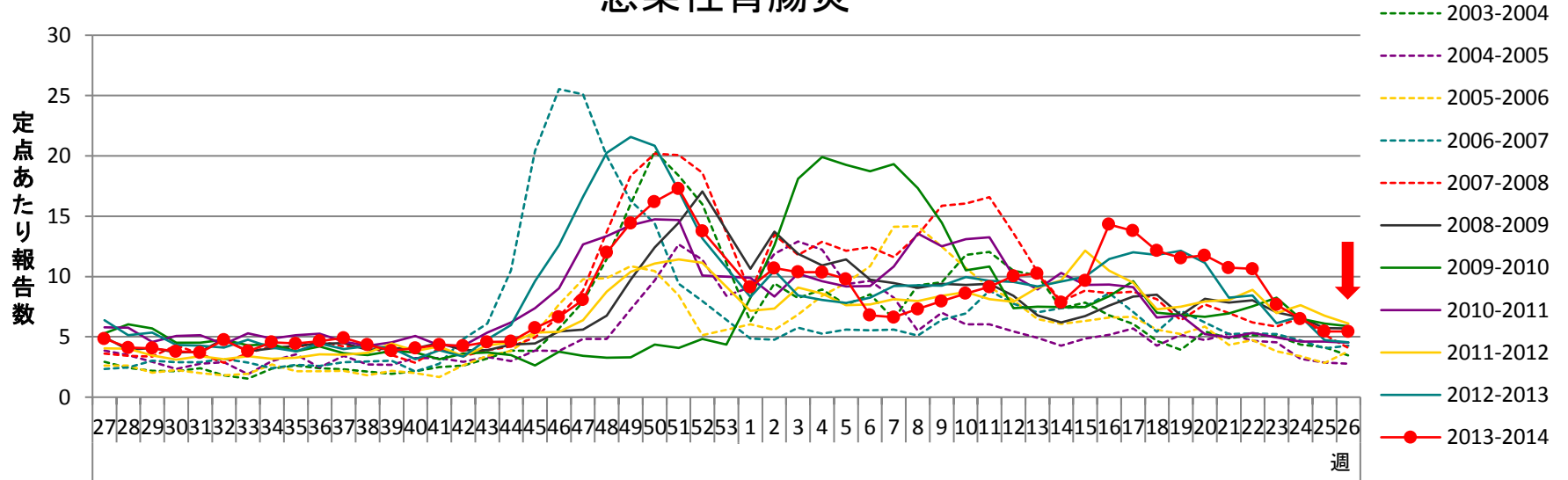
咽頭結膜熱



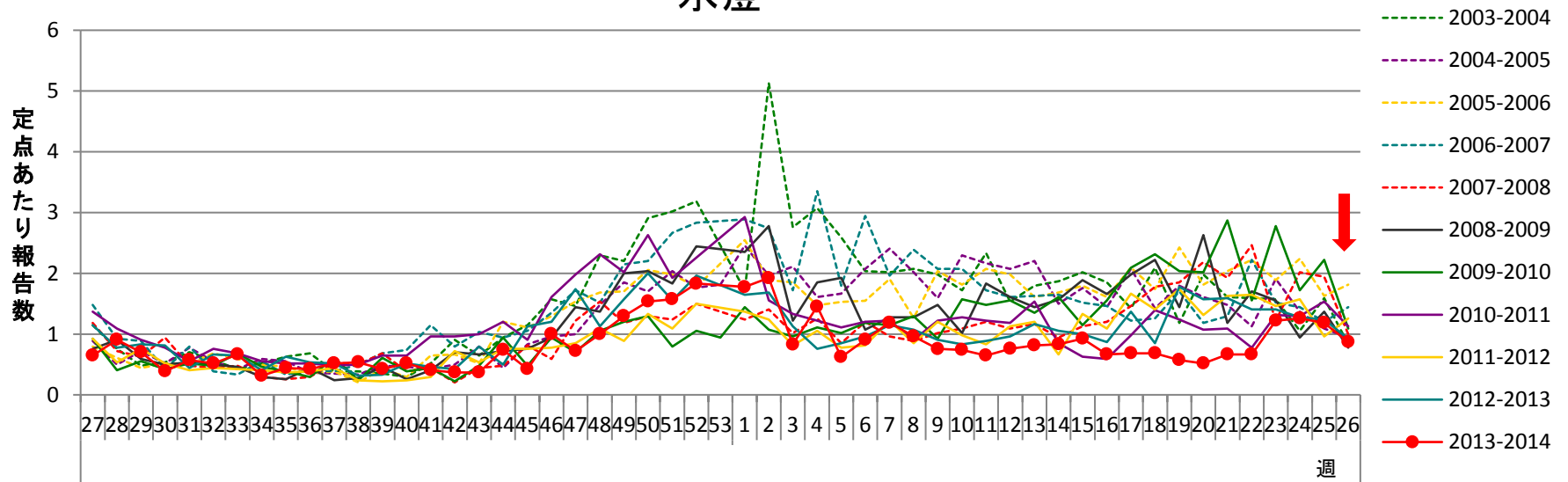
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



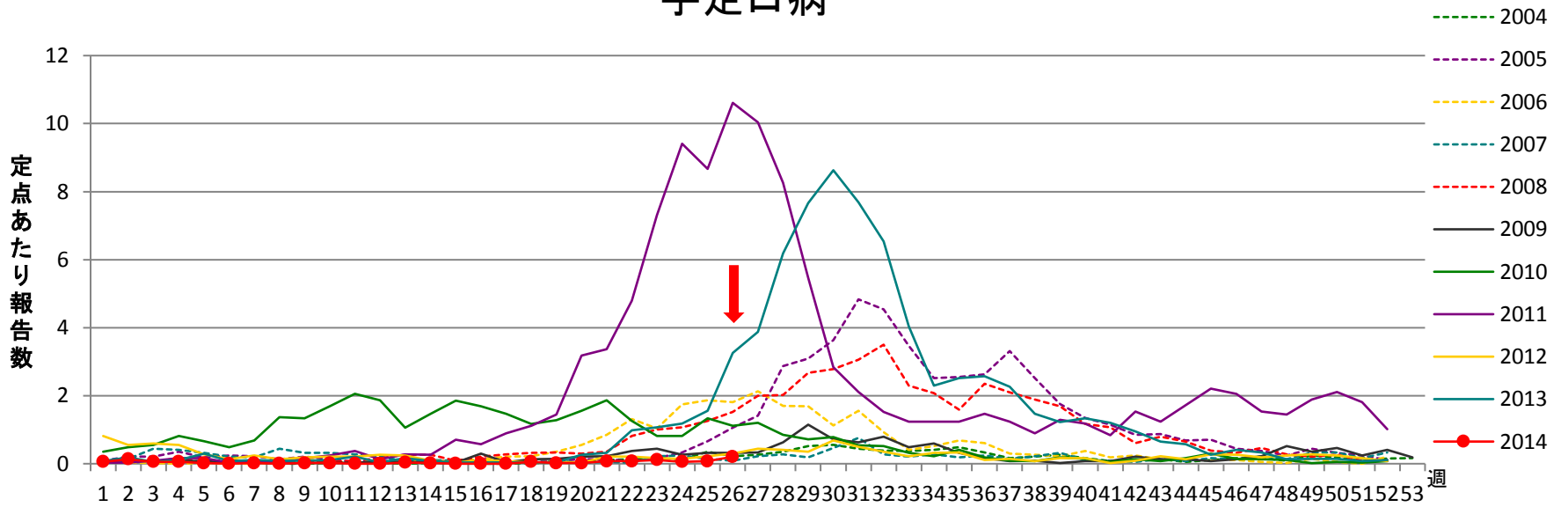
感染性胃腸炎



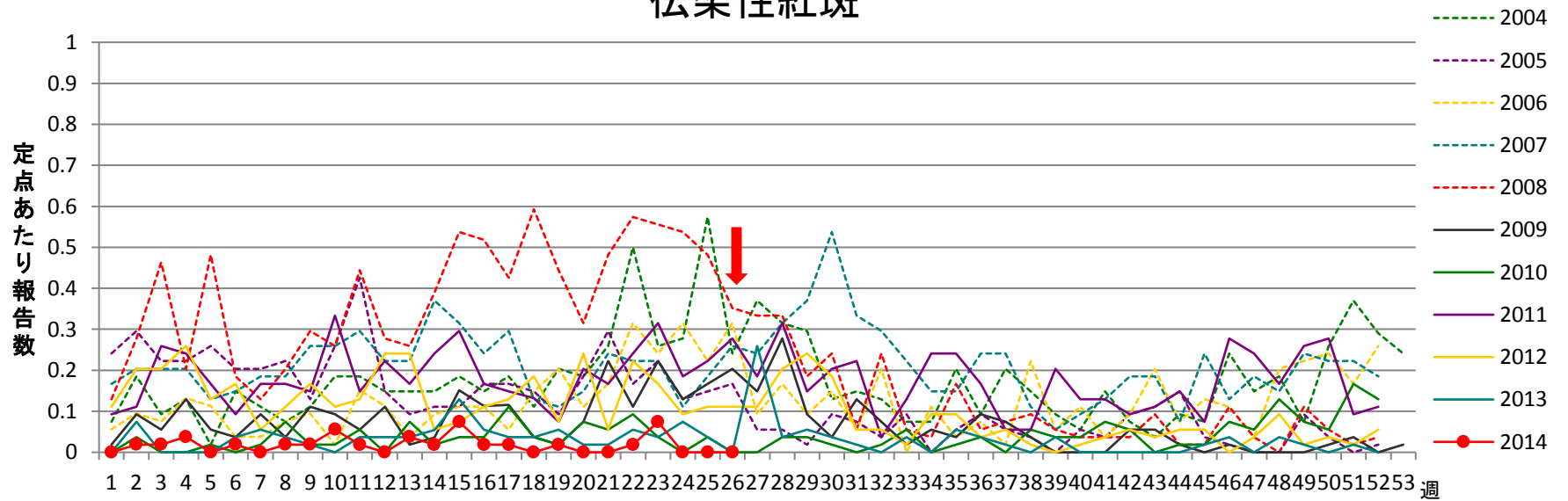
水痘



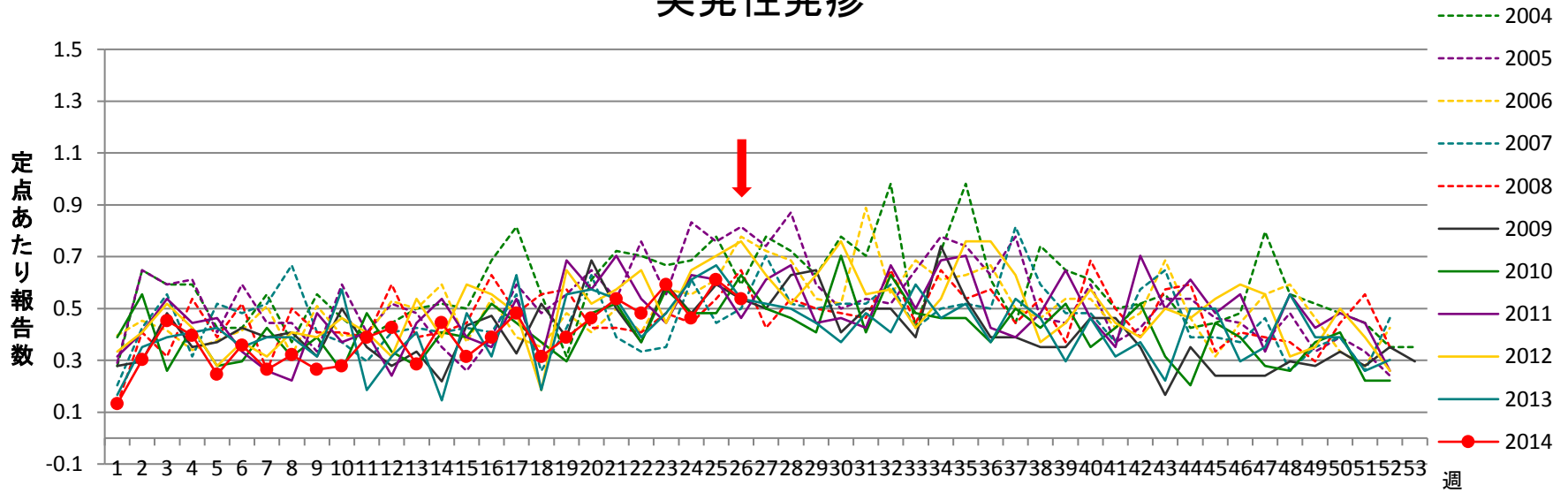
手足口病



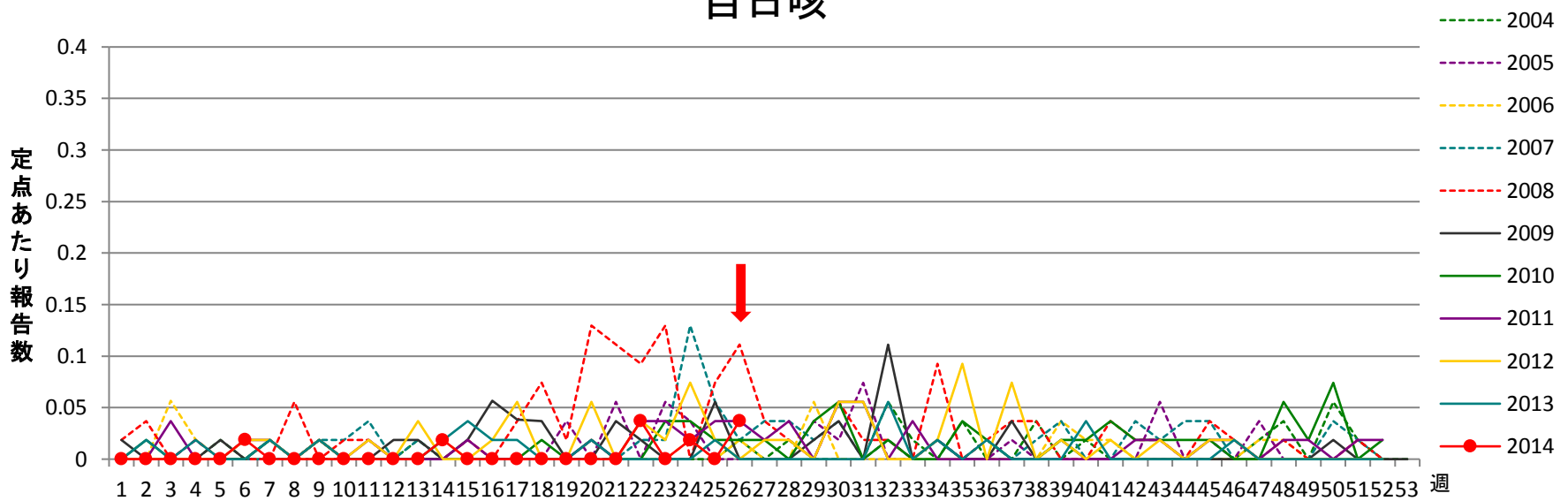
伝染性紅斑



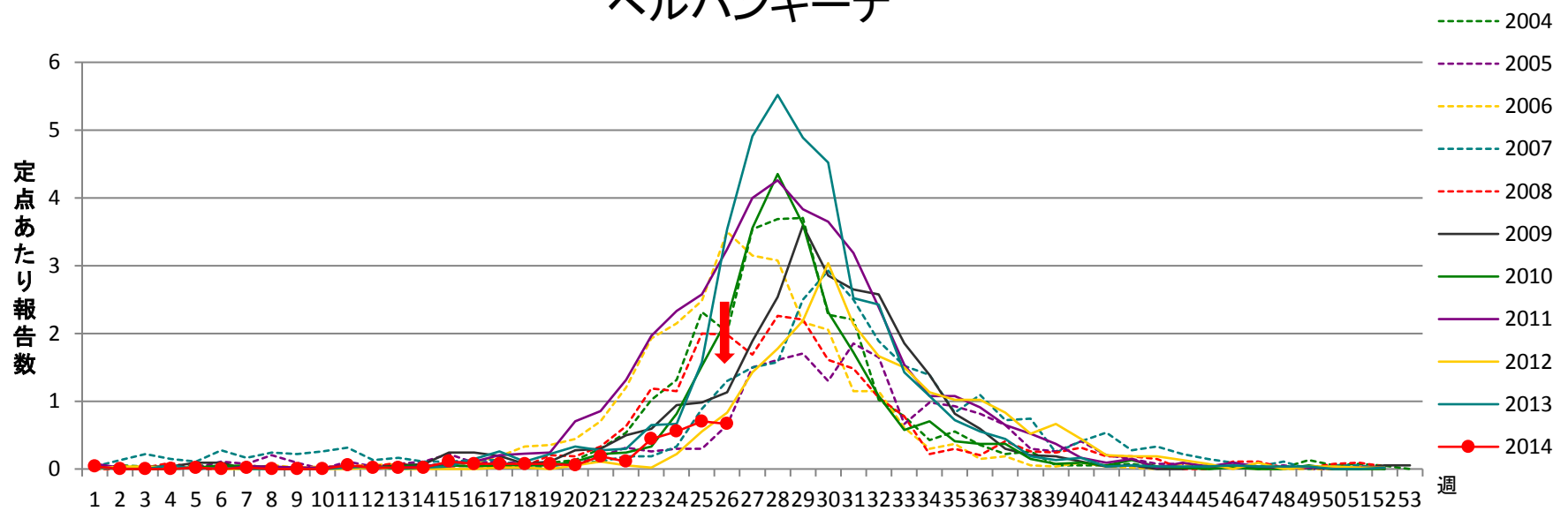
突発性発疹



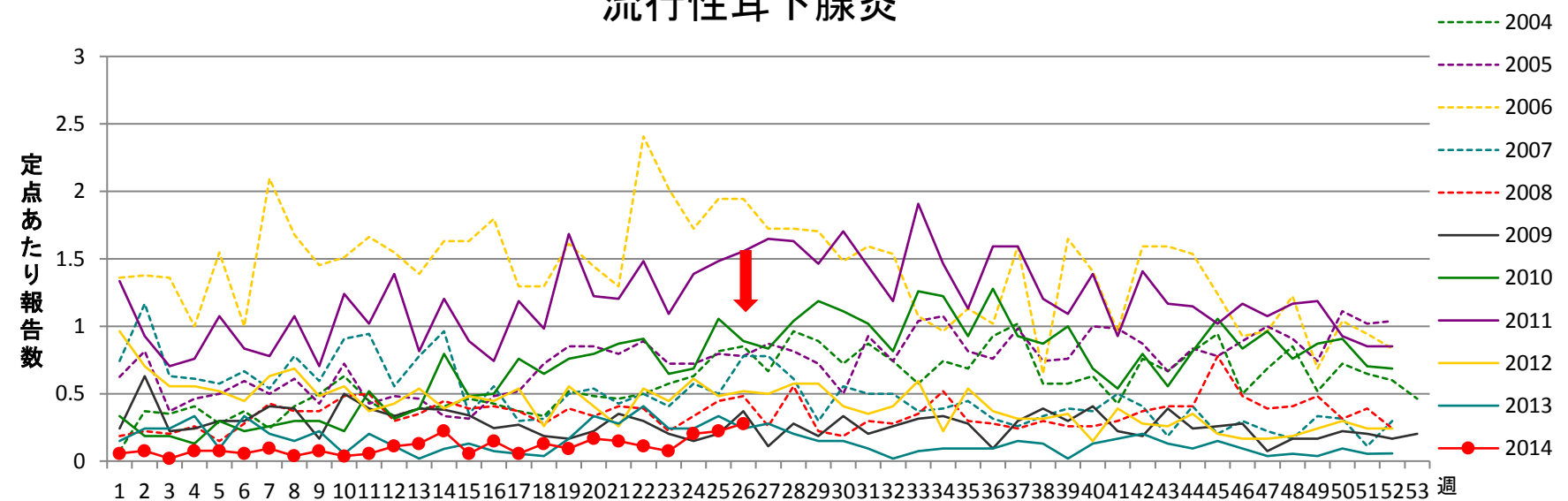
百日咳



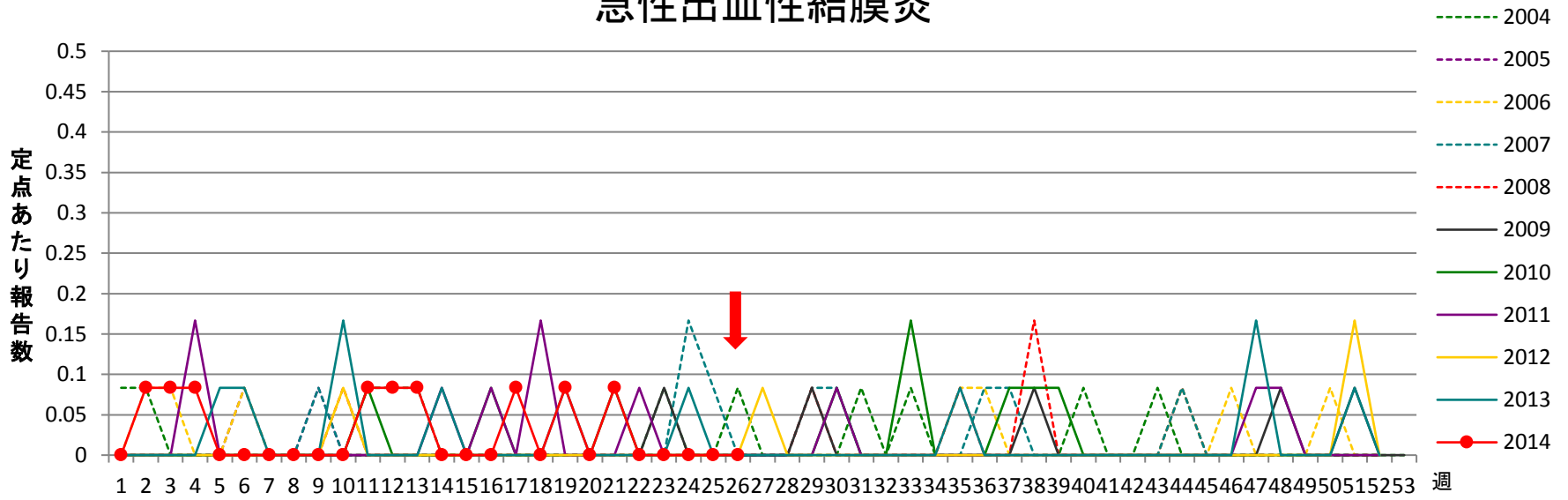
ヘルパンギーナ



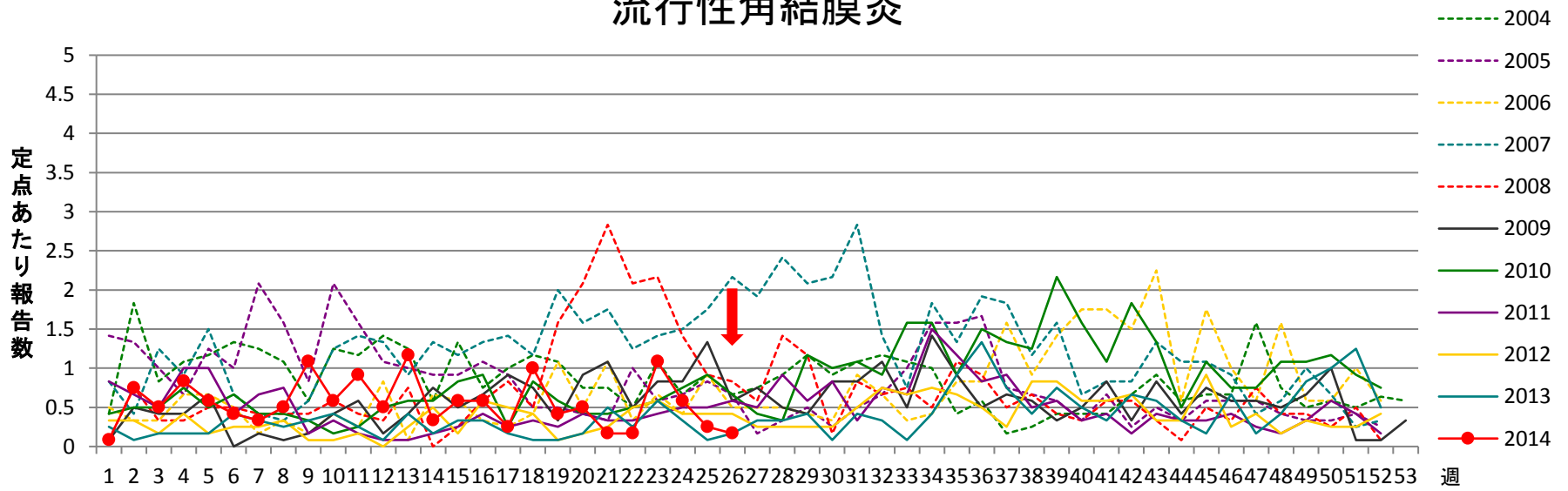
流行性耳下腺炎



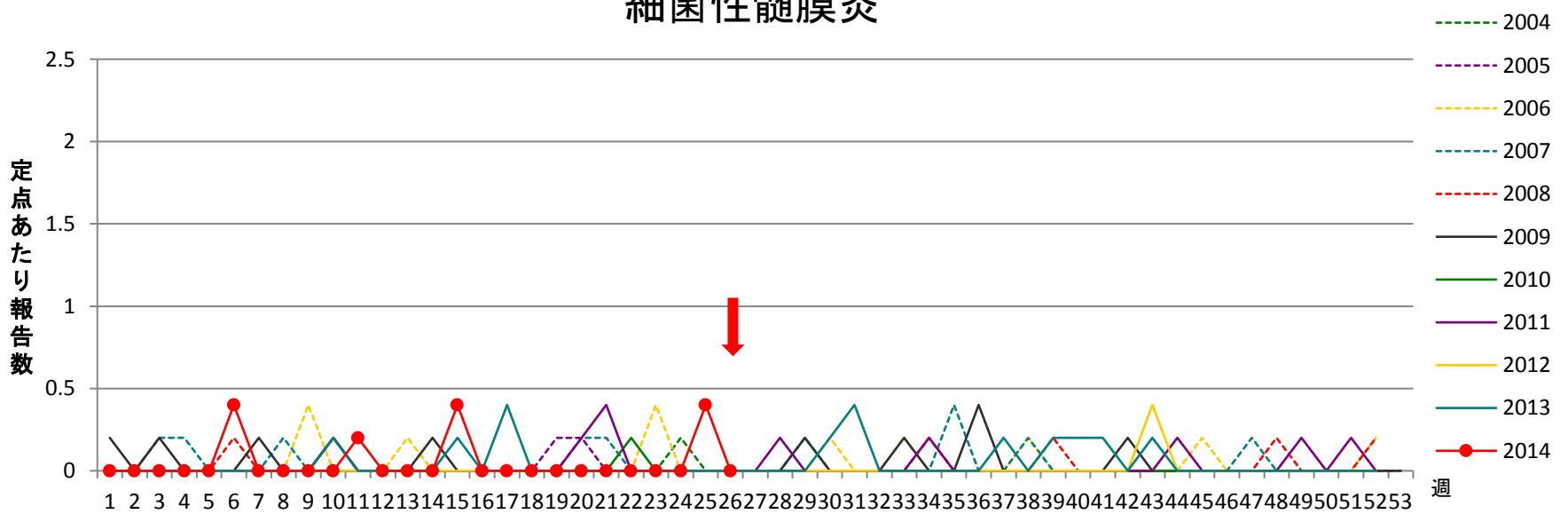
急性出血性結膜炎



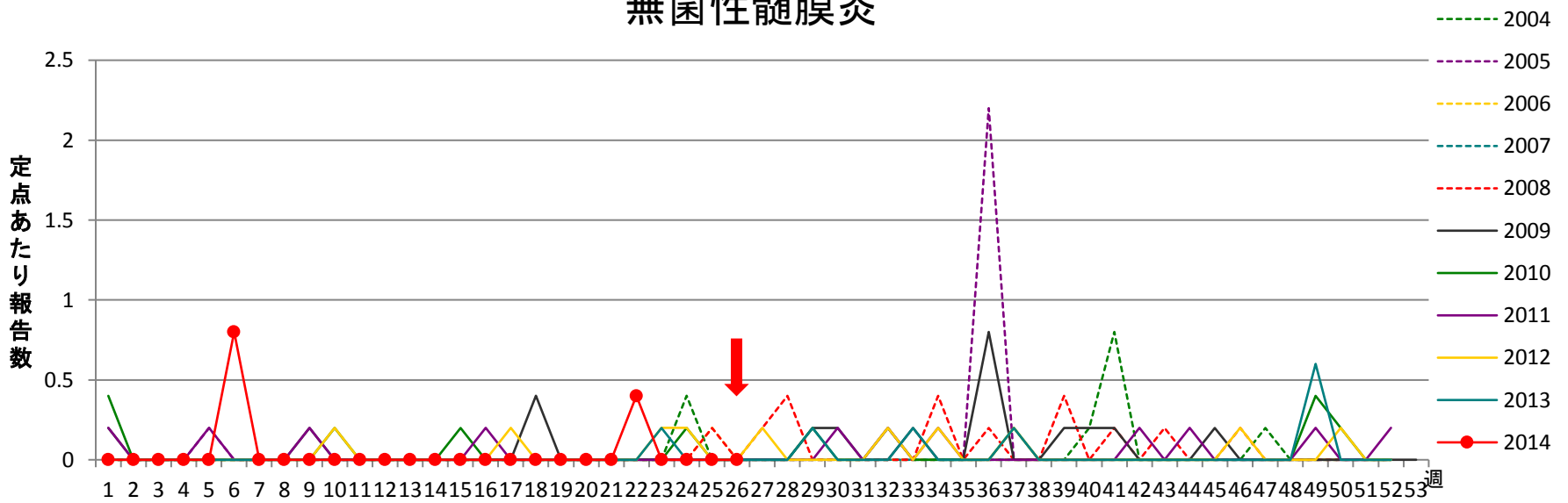
流行性角結膜炎



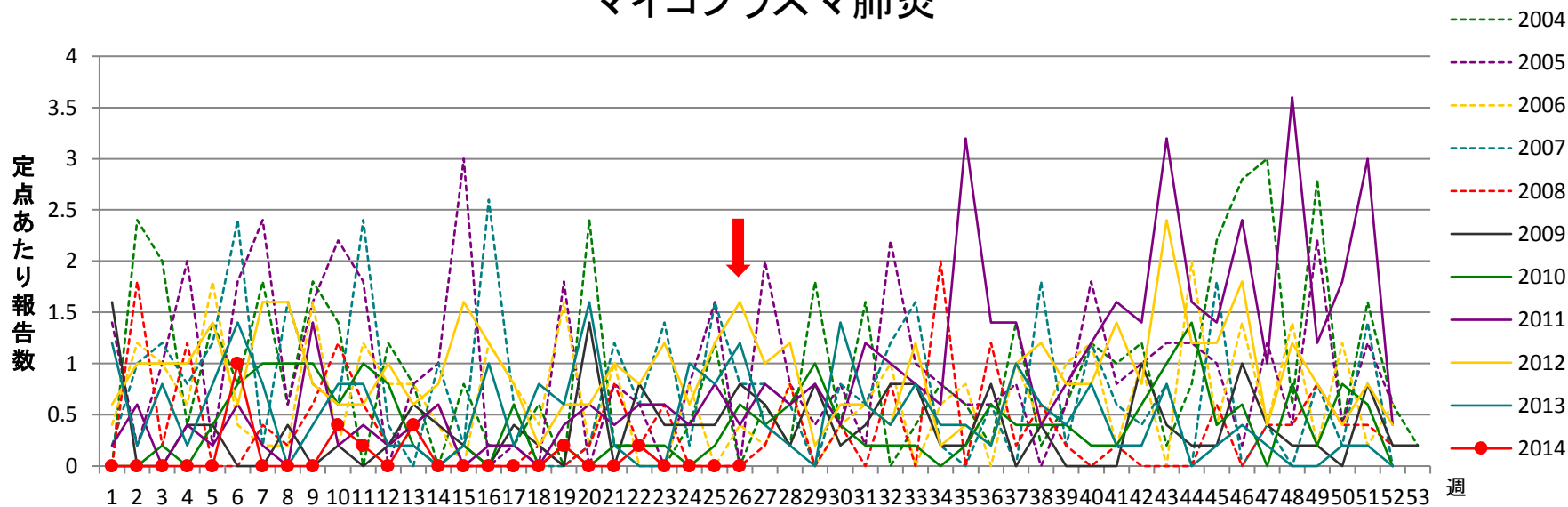
細菌性髄膜炎



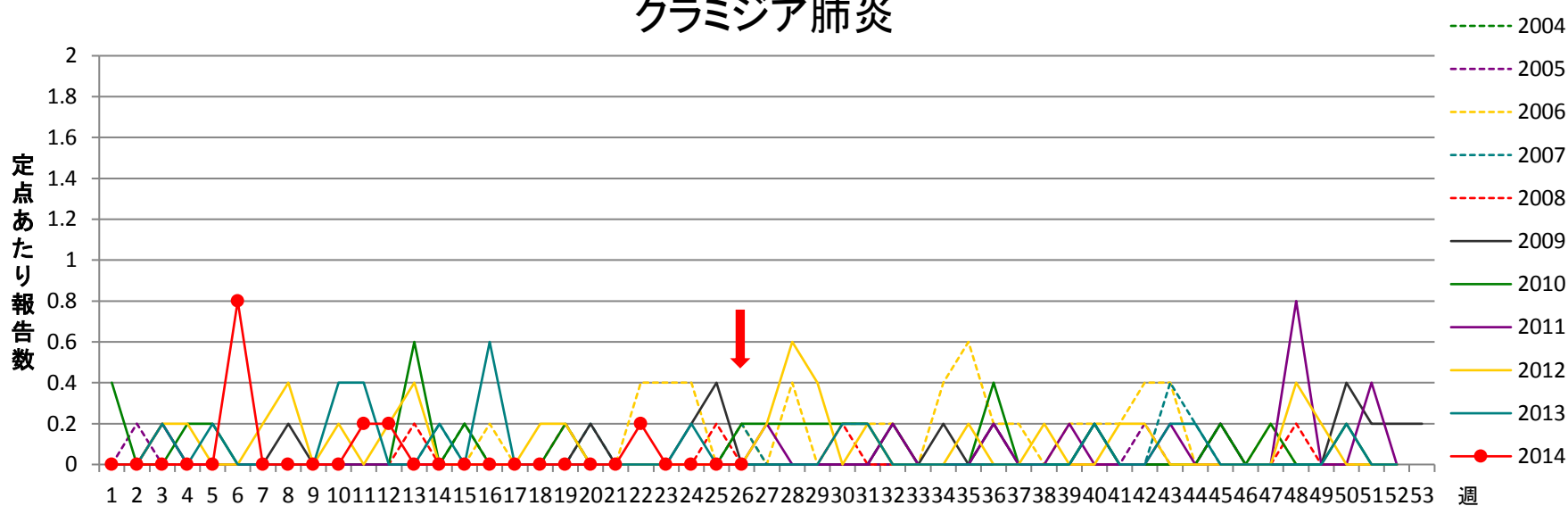
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

